

現代エジプトの歩み

180781192 澤田久昇

目次

はじめに

第1章: エジプト王国と植民地化

第2章: エジプト共和国の成立

第3章: サーダート政権・ムバラーク政権と1月25日革命

第4章: 1月25日革命後の政治

今後の展望



はじめに

1. 国際

→ナイル川の水源地を巡り、エチオピアと対立

2. 国内

→政権内汚職、ムスリム同胞団の潜伏



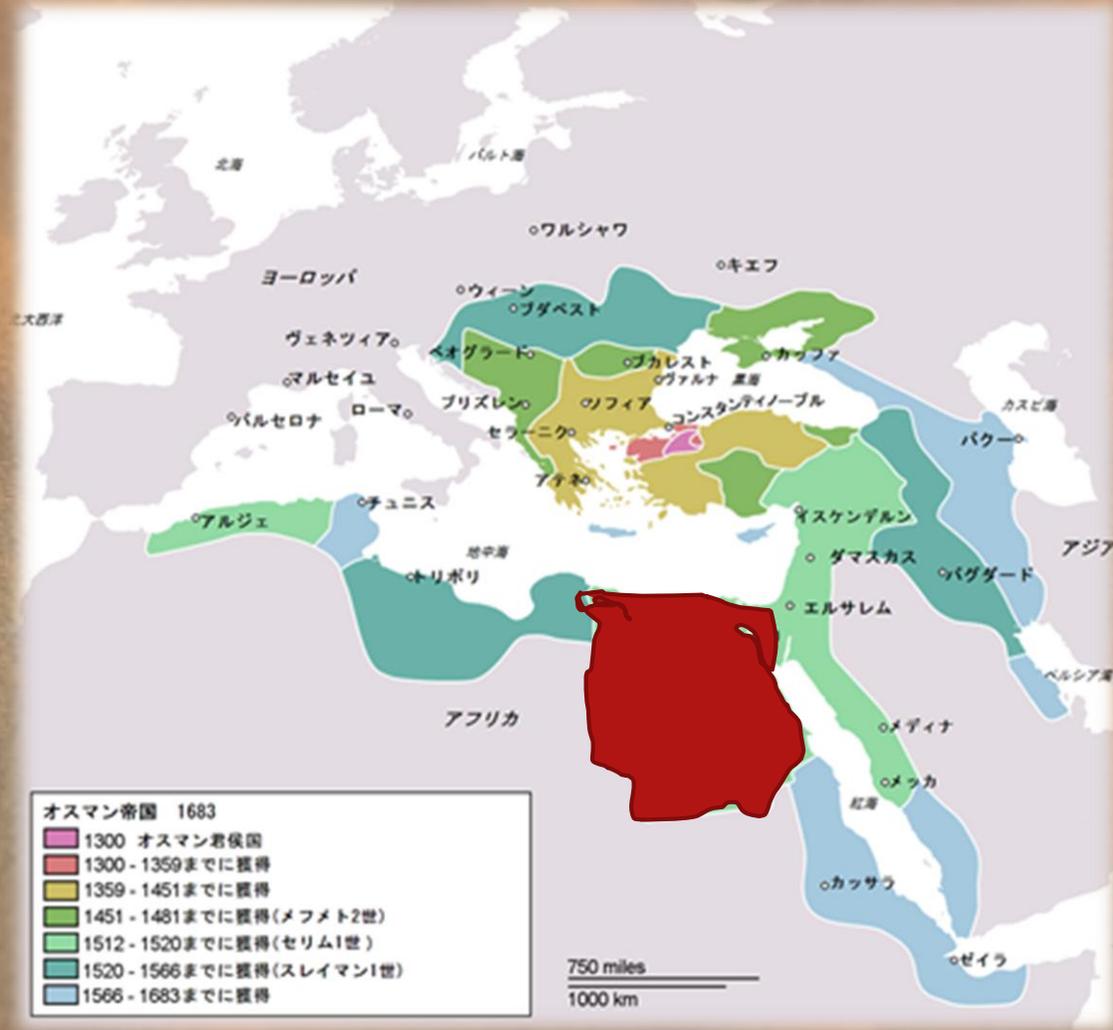
ナイル川、白ナイル、青ナイル川

第1章 エジプト王国と植民地化

第1節エジプト・アラブ共和国の概要

- A) 国土面積 : 約100km²
- B) 首都 : カイロ
- C) 言語 : アラビア語
- D) 国民 : アラブ人、ヌビア人、アルメニア人
- E) 主な宗教 : キリスト教(コプト派)、イスラーム教(スンナ派)
- F) 政治体制 : 共和制
- G) 気候 : 北部沿岸地域以外、沙漠気候

第2節：ムハンマド・アリーの台頭



1683年のオスマン帝国の勢力図

1805年5月14日:ムハンマド・アリーがエジプト総督に就任

→軍の近代化、先進技術の導入



ムハンマド・アリー

第3節：イギリスの植民地化

1840年9月：英、オーストリア、オスマン帝国の連合軍に
エジプトは敗北

→ エジプトはオスマン帝国の従属国化

1914年12月：英国によるエジプトの保護国化

イギリスからの独立

第一次世界大戦後：独立交渉やパリ講和会議への参加も英は拒絶



エジプト国民が抗議運動を展開
→1922年2月28日に英は、エジプトの独立を承認

第2章 エジプト共和国の成立

第1節：ムスリム同胞団、自由将校団の設立

1928年：ムスリム同胞団の設立

→目的：イスラーム社会の建設



ハサン・アル・バンナー

1939年：自由将校団の設立

→中心人物：ガマール・アブドゥンナーシルとムハンマド・アンワル・アッ・サーダート



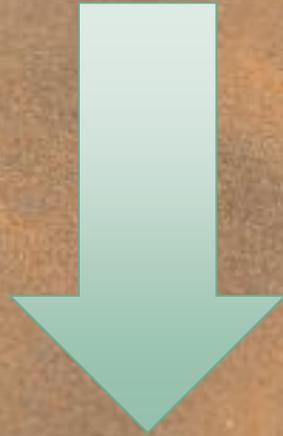
ナセル



サーダート

第2節エジプト王国の滅亡と共和国の成立

1948年5月14日…第一次中東戦争の勃発



敗戦の原因: 戦争に対する準備不足、政権内の汚職
→ 国民の政府に対する不信感、軍の忠誠心の低下

エジプト共和国の成立

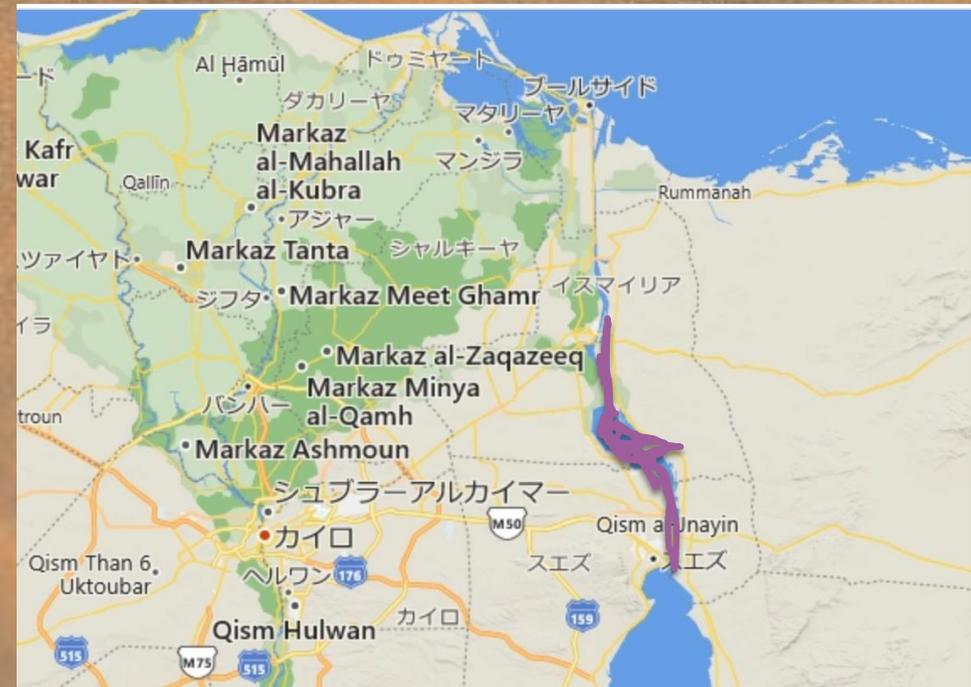
1952年7月23日：自由将校団によるクーデター

→ムハンマド・アリー王朝は廃止、共和制に移行

第3節：ナセルの政策

1956年7月26日：スエズ運河の国有化

→英仏はスエズ運河の占領を画策



スエズ運河

1956年：第二次中東戦争の勃発

→英仏の中東における権威は喪失



民族自立の達成

第3章 サータート政権、ムバラーク政権と1月25日革命

第1節:サーダート政権

1974年:門戸開放政策

→海外からの投資の誘致

1978年:「キャンプ・デービッド合意」を成立

→両国の和平の在り方、パレスチナ人の暫定自治

サーダート政権下における課題

1. 食品、消費財の輸入の増加による貿易赤字
2. 製造業の伸び悩み
3. 農業の低迷

→所得格差の拡大や貧困、失業率の増加

第2節：ムバーラク政権の政策

1990年：湾岸戦争の勃発

→アラブや欧米諸国の調停役として活躍

1991年：IMFと共同で経済改革・構造調整プログラムを作成

→製造業を中心とした経済の活性化に成功

ムバーラク政権下の課題

1. 人口の急激な増加による貧困、失業率の増加
2. 過激なイスラーム主義者の登場
3. 政権内の縁故主義
4. 選挙介入や監視制度廃止による独裁制の強化

→2011年「1月25日革命」の勃発

第3節:1月25日革命

青年勢力

ムスリム同胞団

エジプト軍

革命時

→デモを主導

革命後

軍に民主化を
要求

革命時

→デモの支持を表明

革命後

1. 「自由公正党」の
設立
2. ムルスィーの擁立

革命時

→デモ参加者を支持
及び大統領の退陣

革命後

暫定政権を担当

第4章 1月25日革命後のエジプト

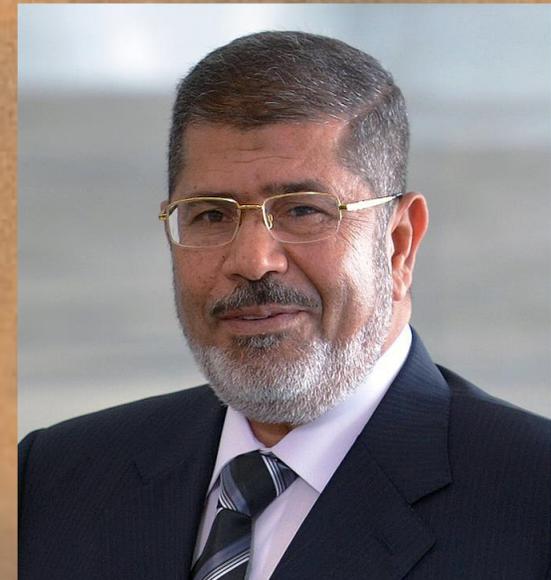
第1節：ムルスィー政権

2012年

6月30日：ムハンマド・ムルスィー大統領に就任

→政権の目的：

1. アメリカからの自立
2. エジプト軍の掌握



ムルスィー大統領

ムルスイー政権の政策及び結果

1. 農民対象に一定以下の負債の免除、給与の引上げ

→物価の上昇により国民生活を圧迫

2. 財政再建のためのIMFからの借り入れ

→国民の反対により、計画は挫折

3. 新憲法草案の強行採決

→2012年12月26日に発効

第2節：ムルスィー政権の打倒

2013年6月30日：軍部のクーデターによる政権打倒

→「6月30日革命」

原因

1. 民主主義が国民にとって不公平と判断
2. デモや軍部への委託が国民によって正当化

第3節: スィー スィー 政権の政治

2014年: 大統領就任

2015年: 新都構想発表

→ カイロの過密化の解消を目的

2017年: ISのテロを機に非常事態宣言

→ デモ、メディアの規制強化



スィー スィー 大統領

2018年:憲法改正の動議の提出

→内容:大統領の任期の延長、
最高憲法裁長官大統領が任命

2021年:エチオピアのダム建設への反発

スイースイー政権の課題

1. 過剰な言論統制
2. 国民生活状況の悪化
3. 政権内の汚職

今後の展望

論点: エジプトの民主化の必要性

1. 必要

1. 国民の批判を力づくで抑え込む安定は危険
2. 国民の貧困率の悪化
3. 自国なりの民主主義の発見への期待

2. 不必要

1. 貧困等の問題の短期解決のためには必要
2. 歴史的背景から民主主義は不向き
3. 治安の維持のためなら独裁制を優先

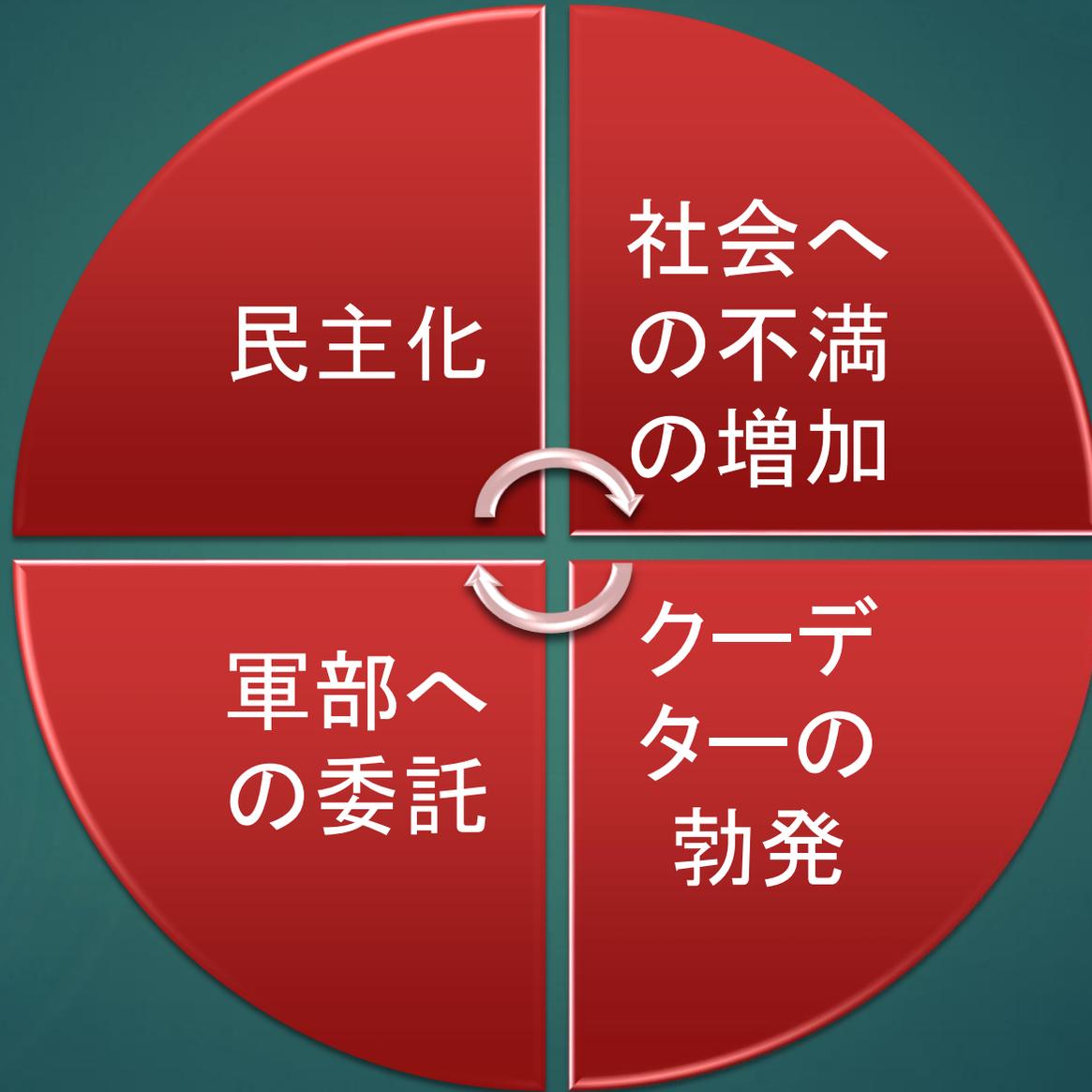
自身の意見

→民主化反対の意見に賛成

理由：

- ①デモやクーデターとよしとしている以上、民主主義は成立は不可能
- ②エジプトの問題が解決するためには民主主義の状態での解決は困難

①の補足



終わり